# 港湾振興便り

２０１３．４
第７２号

＊：＊：＊：

三村氏は、いま日本が置かれている状況について、米国のアーミテージ元国務次官補とハーバード大のジョゼフ・ナイ教授が昨年作成した提言書から話を切りだした。この提言書についてはご存じの方も多いと思うが、現在の日本の位置をよく示していると思うので紹介する。

「現在、日本は一等国であり続けることを希望するのか、それとも二等国に堕して漂流するつもりなのかの瀬戸際に立たされている。一等国は卓越した経済力と国際的な視野、国際問題に関する指導力を有する国である。日本は一等国の地位を維持しうる十分な可能性を秘めている。（略）より開放的な自由貿易と移民の受け入れ、女性による一層の労働参画は、日本のＧＤＰ成長に資することができるであろう。米国は、日本が強い米国を求めている以上に、強い日本を求めている」

この提言書は私たち日本人が熟読玩味すべき内容と思う、三村氏は「感激的な文章」と語っている。その上で三村氏は、２０１２年の貿易収支＝６．９兆円の赤字に触れ、「ものづくり立国・日本」が危うくなっているのに、危機意識が薄く、危機対応シナリオが準備されていないことに警鐘を鳴らしている。

三村氏は、これからの日本を支える分野として、インフラ輸出、環境、観光、医療、宇宙、クールジャンパンを挙げながらも、「自動車、電気・電子、鉄鋼など、従来型の産業群を維持し、そうした産業・企業の製造拠点をいかに国内に留めさせ、なおかつ拡大させていくのか、そのための政策こそが本当の成長戦略ではないでしょうか」と投げかけている。

安倍政権の成長戦略がこれから本格発動する時期に、三村氏は日本商工会議所の会頭就任が決まった。まさに時宜にかなった人事と思う。三村氏を先頭に経済界から実効性ある提言を出していただき、安倍政権の経済戦略を成功に導きたい。

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

## ２　トピック

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

### ●湊まち新潟歴史ウォーク２０１３」の募集が始まりました

**（北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所）**

「*湊まち新潟歴史ウォーク実行委員会」では、「湊まち新潟歴史ウォーク２０１３」の参加者募集を始めました。２０１９年に開港１５０周年を迎える新潟港の湊まちづくりに参加者からの提言を活かしていくことを目的に、平成２０年より毎年開催し、新潟の湊を延べ２００名の市民の皆さんにご案内してきました。平成２３年度に１０３名、昨年度は７９名の応募がありましたが、６年目となる今年も地元紙に募集記事が掲載され、問い合わせを含めた反響が早い時期から寄せられています。４０名の参加者と実行委員、事務所スタッフで、５月から１１月まで新潟港の歴史にゆかりのある地を歩いて親しみ、普段触れる機会の少ない港に関わる施設等を巡る全７回を計画しています。

※ウォークの円滑な運営と、2019 年に開港 150 周年を迎える新潟港と湊まち新潟の発展に寄与することを目的に当事務所、ＮＰＯ法人と一般の方々で設立しました

大型浚渫兼油回収船「白山」見学の様子（昨年６月）

**●下関港海岸（みもすそ川地区）～４月１日より施設の一時開放を行っています～**

**（九州地方整備局　下関港湾事務所）**

下関港沿岸域は高潮の常襲地帯で、過去の台風で甚大な被害を受けており、下関港海岸では「長府・壇ノ浦地区」と「山陽地区」の施設延長約 18km について、直轄の海岸保全施設整備事業（高潮対策：高潮・高波からの防護を目的 ）として施設整備をすすめています。

長府・壇ノ浦地区の事業延長 5.2km の区間は平成 21 年度から整備を鋭意進めておりますが、特に関門地区の観光拠点となっている、２工区（みもすそ川地区）について、護岸本体と転落防止柵等の施設の一部 140m 区間が完成しましたので、平成 25 年 4 月 1 日より施設の一時開放を行っています。

長府・壇ノ浦地区は、「関門の固有資源を活かし、海岸景観に配慮した安全で快適な防波堤・道路の施設づくり」を整備テーマとしています。２工区の整備では、背後の「みもすそ川公園（都市公園）」との一体的な利用と関門海峡の景観に配慮した整備を進めており、今後の関門地区の地域と観光への利活用を期待するものです。

平成 25 年度からは、国道事業との連携区間である、1 工区（壇ノ浦地区）の整備に着手予定であり、みもすそ川地区から壇ノ浦地区の区間について、平成 26 年度完成を目指して整備を進めております。

このたびは一部区間の一時開放ではありますが、観光拠点となっている当該地区の利用と景観に配慮した整備で地元の関心も高く、当事務所では引き続き地域の方の事業へのご理解とご協力を得て、下関港海岸事業の推進につなげて参りたいと思います。

●一時開放期間　平成２５年４月１日～平成２６年３月31日（予定）

**●第１回 今治港ビジョン・デザイン検討委員会 開催**

**（今治市　農水港湾部　港湾建設課）**

平成２５年２月２８日、今治港の再興および成長の視点に立った総合的港湾空間の形成を図るため、今治港の諸要請ならびに今後の果たすべき役割などを検討し、ビジョン・デザインの策定に関して、提言および助言を行うことを目的として検討委員会が開催されました。委員会は、地元の港湾関係者や大学教授、経済関係者など産官学民それぞれの分野からの 29 人で構成されています。

会場では「今治らしい独自性によって全国の港に負けないようにしたい」「海運業振興に向けた特区づくりは出来ないだろうか」などの意見の他に「防災対策についても重要である」などの提案も出されました。

今回の議論を踏まえて、次回は今治港が今後担うべき役割や「今治港ビジョン・デザインの検討」を行うために「内港まちづくり」「内外貿物流」「防災対策」の３部会を立ち上げて更なる議論を重ねることとなりました。

▲富田地区の視察

▲蔵敷地区の視察

▲委員会の様子

●「国際物流シンポジウムを開催」～民力による関西の再生～

（近畿地方整備局　港湾空港部　港湾物流企画室）

平成２４年１０月、全国で初めて神戸港埠頭株式会社と大阪港埠頭株式会社が特例港湾運営会社として指定され、民の視点を活かした港湾運営が始動した「阪神港」。一方で大阪国際空港との経営統合を果たした「関西国際空港」。

民間の能力を活用した「阪神港」及び「関西国際空港」の機能強化により、日本の国際競争力強化及び関西経済の活性化を図るため、平成２５年３月１３日、関西の国際物流を支える両インフラに対する期待を語る『国際物流シンポジウム』を大阪市内で開催しました。

パネルディスカッション『「民力」による、これからの関西の国際物流を語る』では、コーディネーターとして　黒田勝彦　神戸大学名誉教授と３名のパネリストによる「「民力」によるこれからの関西の国際物流を語る」をテーマにして、各運営主体に何が求められているか、また、経済界や行政、その他関係者が今後果たすべき役割等について意見交換が行われました。

今回のシンポジウムでは約850名の聴講者にお集まりいただき、総合交通体系の整備の戦略的な実施と、広域的な連携によるシームレスな物流の実現の必要性についての議論を共有しました。

国際物流シンポジウムの様子

開会挨拶：森　詳介　関西経済連合会会長
特別講演：「アジアダイナミズムと日本、そして関西の活性化に向けて」
寺島　実郎　一般財団法人日本総合研究所　理事長
多摩大学　学長
株式会社三井物産戦略研究所　会長

パネルディスカッション：「「民力」による、これからの関西の国際物流を語る」
コーディネーター　黒田　勝彦　神戸大学名誉教授
パネリスト（50音順）安藤　圭一　新関西国際空港株式会社代表取締役社長
犬伏　泰夫　神戸港埠頭株式会社代表取締役社長
高橋　進　株式会社日本総合研究所　理事長
経済財政諮問会議　民間議員

【国際物流シンポジウム開催報告のリンク】
http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/kbutsuryu/html/sympo.html

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

## ３　お知らせ

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：

＊：＊：＊：　本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先　：＊：＊：＊＊：＊＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002　港区愛宕１－３－４
TEL：03-5776-0630　FAX：03-5776-0631
e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：＊：